

在宅医療・介護連携多職種研修会

日時：平成31年2月20日(水) 19時～20時50分

場所：唐津市文化体育館「文化ホール」

実践講話：テーマ『終末期と看取り』

①「ケアマネと看取り」

【演者】 唐津・東松浦地区介護支援専門員協議会理事
(岬荘居宅介護支援センター) 介護支援専門員 井上 優慶 氏

②「家族と共に支え合う看取り～永遠の別れは我が家で～」

【演者】 唐津市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
(小規模多機能型居宅介護事業所ひだまり) 看護師 松尾 恵子 氏

③「共に生きる」

【演者】 唐津東松浦医師会理事(介護・福祉担当)
(医療法人慈孝会七山診療所) 医師 阿部 智介 氏



今回の講演では、介護支援専門員、看護師、医師、それぞれの立場で経験された在宅死、看取りの現状の取り組みや報告事例、自分らしく過ごせるよう、家族や周囲が本人の意思を理解することが大事で、多職種連携に上下はないということを講演していただきました。参加者は、430名でした。

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続でき、医療と福祉のサービスを一体的に受けられる体制づくりを充実させるためには先生方のご協力が不可欠ですので、今後ともご協力の程宜しくお願いいたします。

唐津東松浦医師会住民公開講座

日時：平成31年3月16日(土) 14時～16時30分

場所：唐津市高齢者ふれあい会館「りふれホール」

第1部「住み慣れた町で「生ききる」ために」～あなたの想いを伝えるエンディング・ノート～ という演題で、宮崎大学医学部医学科社会医学講座生命・医療倫理学分野教授 板井孝



彦郎先生をお招きして、住民公開講座を開催しました。宮崎市の「私の想いをつなぐノート」(エンディング・ノート)作成の経緯、市民一人一人が自分らしく終末期を迎えるため、最期をどこで過ごし、どのような医療を受けたいか等、お話ししていただきました。

第2部では、会場参加者からの質問に、唐津市民病院きたはた院長大野每子先生と講師の板井孝彦郎先生が答える『每子の部屋』が、和やかな雰囲気で行われました。

参加者227名でした。

オチを付けて回答しようとする板井先生と
玉ねぎ髪型の大野先生